

健康危険情報

特記事項なし

研究発表

1. 論文発表

1. Comparison of the influence of four classes of HIV antiretrovirals on adipogenic differentiation: the minimal effect of raltegravir and atazanavir. Minami R, Yamamoto M, Takahama S, Ando H, Miyamura T, Suematsu E. J Infect Chemother. 2010 Aug 13.
2. Trends in transmitted drug-resistant HIV-1 and demographic characteristics of newly diagnosed patients: nationwide surveillance from 2003 to 2008 in Japan. Hattori J, Shiino T, Gatanaga H, Yoshida S, Watanabe D, Minami R, Sadamasu K, Kondo M, Mori H, Ueda M, Tateyama M, Ueda A, Kato S, Ito T, Oie M, Takata N, Hayashida T, Nagashima M, Matsuda M, Ibe S, Ota Y, Sasaki S, Ishigatsubo Y, Tanabe Y, Koga I, Kojima Y, Yamamoto M, Fujita J, Yokomaku Y, Koike T, Shirasaka T, Oka S, Sugiura W. Antiviral Res. 2010 Oct;88(1):72-9.
3. TaqmanPCR 法による HIV-RNA 定量の基礎的検討 田中沙希恵、藤野達也、堀田飛香、原田浩、中村辰巳、高橋真梨子、高濱宗一郎、安藤仁、南留美、山本正弘、国臨協九州別冊 vol110(1), 1-6, 2010. 1
4. High molecular weight form of adiponectin in antiretroviral drug-induced dyslipidemia in HIV-infected Japanese individuals based on in vivo and in vitro analyses. Minami R, Yamamoto M, Takahama S, Ando H, Miyamura T, Suematsu E. Intern Med. 2009;48(20):1799-875, 2009
5. Human herpesvirus 8 DNA load in the leukocytes correlates with the platelet counts in HIV type 1-infected individuals. Minami R, Yamamoto M, Takahama S, Ando H, Miyamura T, Suematsu E. AIDS Res Hum Retroviruses. ;25(1):1-8, 2009.

6. . 治療後ウエスタンブロット法にて抗 HIV 抗体が陰性化し持続している HIV-1 感染症の一例 南留美、高濱宗一郎、安藤仁、山本政弘、日本感染症学誌 83 巻 3 号、p251-5, 2009

2. 学会発表

1. Some antiretroviral drugs increased the degree of steatosis in hepatitis B virus infected hepatocytes, Minami R, Takahama S, Ando H, Yamamoto M, XVIII International AIDS Conference, 18-23, July, 2010, Vienna, Austria
2. 抗 HIV 剤による代謝への影響 南 留美 第 24 回日本エイズ学会総会 ランチョンセミナー
3. 2003-2009 年の新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性頻度の動向 服部純子^{1,2}、椎野禎一郎³、湯永博之¹、林田庸総¹、吉田 繁⁵、千葉仁志⁵、小池隆夫⁵、佐々木悟⁶、伊藤俊広⁶、内田和江⁷、原 孝⁸、佐藤武幸⁹、上田敦久¹⁰、石ヶ坪良明¹⁰、近藤真規子¹¹、今井光信^{11, 12}、長島真美¹³、貞升健志¹³、古賀一郎¹¹、太田康男¹¹、山元泰之¹⁵、福武勝幸¹⁵、加藤真吾¹⁶、藤井毅¹⁷、岩本愛吉¹⁷、西澤雅子³、仲宗根正³、岡慎一¹、伊部史朗¹、横幕能行¹、上田幹夫¹⁸、大家正義¹⁹、田邊嘉也¹⁹、渡辺香奈子²⁰、渡邊大²¹、白阪琢磨²¹、小島洋子²²、森 治代²²、中桐逸博²³、高田 昇²¹、木村昭郎²¹、南 留美²⁵、山本政弘²⁵、松下修三²⁶、藤田次郎²⁷、健山正男²⁷、杉浦 互^{1, 3} 第 24 回日本エイズ学会総会
4. 残存プロウイルス量測定の臨床的意義について 渡邊 大、伊部史朗、上平朝子、南留美、矢嶋敬史郎、谷口智宏、笠井大介、西田恭治、山本政弘、白阪琢磨、金田次弘、第 24 回日本エイズ学会総会
5. 多施設共同疫学調査における HAART の有効率 2009 菊池嘉、遠藤知之、南 留美、伊藤俊広、田邊嘉也、上田幹夫、横幕能行、渡邊大、藤井輝久、宮城島拓人、建山正男、中村仁美 第 24 回日本エイズ学会総会
6. SLE 様症状を呈し、ヘルポウイルス B19 感染が

- 判明した AILD 合併 HIV 感染症の一例 高濱宗一郎、南 留美、山本政弘、第 24 回日本エイズ学会総会
7. EFV, TDF/FTC の大量副読語の薬物血中動態について 大石祐樹、安藤仁、高橋昌明、高濱宗一郎、南 留美、石橋誠、山本政弘 第 24 回日本エイズ学会総会
 8. 急性 HIV 感染症の入院 37 症例の検討 渡邊大、上平朝子、白阪琢磨、横幕能行、濱口元洋、南 留美 第 24 回日本エイズ学会総会
 9. 抗 HIV 療法施行中に血管免疫芽球性 T 細胞リンパ腫を併発した HIV-1 感染症の 1 例 南 留美、高濱宗一郎、長与由紀子、城崎真弓、辻麻理子、山本政弘 第 24 回日本エイズ学会総会
 10. 当院での就労問題に対するカウンセリングによる取組み 辻麻理子、南 留美、高濱宗一郎、城崎真弓、長与由紀子、本松由紀、石川謙介、本田慎一、早川宏平、山本政弘 第 24 回日本エイズ学会総会
 11. 当院における HIV 感染患者に対する栄養食事指導の現状と効果について 増田香織、池本美智子、長与由紀子、城崎真弓、高濱宗一郎、南 留美、山本政弘 第 24 回日本エイズ学会総会
 12. 福岡地域で得られた HIV の免疫耐性 川本大輔、宮代守、桶脇弘、高橋真梨子、南 留美、山本政弘 第 24 回日本エイズ学会総会
 13. The effect of antiretroviral drug on the lipid metabolism in hepatocytes with and without HCV infection. Miinami R, Takahama S, Ando H, Yamamoto M 9th International Congress on AIDS in Asia and the Pacific (ICAAP), in Bali, Indonesia from 9-13 August 2009.
 14. Increasing Prevalence of Drug-resistance Mutations among Treatment-naïve HIV-infected Patients in Japan, 2003 to 2007. Junko Hattori¹, S Yoshida², H Gatanaga³, M Kondo¹, K Sadamasu⁵, T Shirasaka⁶, H Mori⁴, R Minami⁷, W Sugiura^{1,8}, and the Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network. The 16th Conference on Retroviruses and Opportunistic Infections. February 8 - 11, 2009, Montreal, Canada
 15. 2003-2008 年の新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性頻度の動向 服部 順子、湯永博之、吉田繁、(略)、南留美、山本政弘、(略)、杉浦互 第 23 回日本エイズ学会学術集会 2009 年 11 月 26-28 日、名古屋
 16. 多施設共同疫学調査における HAART の有効率、菊池嘉、岩本愛吉、佐藤典宏、伊藤俊広、田邊嘉也、横幕能行、上田幹夫、渡邊大、藤井輝久、南留美、宮城島拓人、建山正男、第 23 回日本エイズ学会学術集会 2009 年 11 月 26-28 日、名古屋
 17. 抗 HIV 剤は HBV 感染肝細胞における肝脂質代謝を促進する 南留美、高濱宗一郎、安藤仁、山本政弘、第 23 回日本エイズ学会学術集会 2009 年 11 月 26-28 日、名古屋
 18. RAL/ATV/RTV によるダブルブースト療法が奏効した吸収不良 HIV 感染症の 1 例 高濱宗一郎、安藤仁、南留美、山本政弘、第 23 回日本エイズ学会学術集会 2009 年 11 月 26-28 日、名古屋
 19. 福岡地域における HIV 感染者および AIDS 患者から分離された HIV の遺伝子解析 川本大輔、桶脇弘、高橋真梨子、南留美、山本政弘、第 23 回日本エイズ学会学術集会 2009 年 11 月 26-28 日、名古屋
 20. スポンサーシップ「当院における Raltegravir の使用経験 臨床的および in vitro での解析」南留美、第 23 回日本エイズ学会学術集会 2009 年 11 月 26-28 日、名古屋
 21. 「HIV 感染に関する 3 つの話」南留美、第 7 回福岡 HIV 感染症治療研究会 2009 年 11 月 6 日

知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得
なし
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

6

名古屋医療センターにおける急性感染症例の臨床像と治療経過

研究分担者：濱口 元洋（国立病院機構名古屋医療センター、エイズ・感染症診療部長）

横幕 能行（国立病院機構名古屋医療センター、エイズ・感染症診療医長）

研究要旨

2008年1月1日から2010年12月31日までに名古屋医療センターを新規受診した HIV 感染者の中から急性 HIV 感染症と診断された症例の臨床経過の解析を行った。新規 HIV 感染症診断症例 326 例中 12 例が HIV 急性感染症と診断された。全例が同性間性的接触により感染した男性であった。これまで 7 例に対し抗 HIV 療法が開始され、良好な経過である。

研究目的

HIV 急性感染症の標準的治療法の確立のため、急性感染症例の蓄積および経過の検討、考察を行ってきた。本研究では、2008年1月1日から2010年12月31日までに名古屋医療センターで診断された 12 例の HIV 急性感染症例について、臨床経過を解析することにより標準的治療法についての考察を行う。

研究方法

2008年1月1日から2010年12月31日までに名古屋医療センターを新規受診した HIV 感染者の中から急性 HIV 感染症と診断された症例について、臨床経過をまとめ、検討を行った。

（倫理面への配慮）

データ解析や症例検討は、同意が得られた患者について行い、患者個人が特定されないように考慮した。倫理面の配慮はヘルシンキ宣言に則った。

研究結果

名古屋医療センターを新規受診した HIV 感染者は、2008年 123 名、2009年 115 名、2010年は 134 名であった。そのうち、新規に HIV 感染症と診断されたのは、それぞれ、108 名、100 名、118 名で合計 326 名であった。急性感染症と診断されたのは、2008年 4 例、2009年 2 例、2010年 6 例の合計 12 例であった。全例男性であり、年齢の中央値は 31.5 歳であった。

【臨床症状】ほぼ全例で 38 度以上の熱発が 1 週間以上継続し、しばしば咽頭痛、頭痛、皮疹および下痢

等の消化器症状を伴っていた。検査値異常としては肝機能障害と血小板減少を伴うことが多かった（table 1）。

【B 型肝炎罹患歴】急性感染症例 12 例中 10 例で HBsAb 陽性（HBcIgG も陽性）であった。HBsAg 陽性例はなかったが、高率に B 型感染に罹患していた（table 1）。

【CD4 数およびウイルス量】急性感染症症例の CD4 数の中央値は $235 / \cdot 1$ （最小値 114、最大値 642）ウイルス量の中央値は 6.7 （log copies/ml）（最小値 3.0、最大値 7.0 以上）であった（table 1）。12 例中 7 例で治療開始されており、治療開始例の治療開始時の CD4 数の中央値は $154 / \cdot 1$ （最小値 79、最大値 312）ウイルス量の中央値は 5.4 （log copies/ml）（最小値 4.6、最大値 6.6）であった。未治療例と比較すると、CD4 数は診断時に治療開始例で低く、回復傾向が認められなかった。ウイルス量も未治療例と比較して減少傾向に乏しい傾向があった（table 2）。

【治療開始時期と治療効果】ガイドライン改訂および新規抗 HIV 剤により、2010 年の診断例で治療開始された症例では全例で 3 ヶ月以内に治療が開始されていた（table 3）。治療開始された全症例で良好な抗ウイルス効果が得られウイルス量の減少と CD4 数の増加が認められた。また、急性感染症状も速やかに改善を認めた。

【抗 HIV 剤の選択】消化器症状、肝機能障害、皮疹などの臨床症状を有する症例が多いことから、2010 年の症例ではこれらに関連する副作用の少ないアイセントレス（RAL）が 2 例で使用されていた。ほと

んどの症例で高ウイルス量を示すことが多いことから、NRTI はツルバダ (TVD) が選択されていた (table 3)。

考察および結論

現在のガイドラインに従って抗 HIV 療法を行う場合、HBV, HCV 重複感染がなく、かつ、未発症であれば、感染者のアドヒアランスが良好であれば良好な予後が期待できる。HIV 急性感染症の症状は非特異的であり、臨床現場で“ありふれた”臨床症状のみからは診断が困難なことが多いと推測される。しかしながら、今回の症例で、HBV 感染症の罹患歴など臨床症状に加えて HIV 感染症罹患のリスクがあると判断し得る症例が多いことも推測された。基本に忠実に病歴を聴取し、HIV 感染リスクがあると考えられた場合は積極的にスクリーニング検査を実施するように情報発信が重要であると考えられた。

名古屋医療センターの新規受診者の約 40% がエイズ発症例である。HIV 感染症の有症状時である急性感染症の時期で HIV 感染症の診断と治療を行うことは、感染者の予後改善に重要である。また、新規感染者の増加をも防ぐことにつながると考えられる。

杉浦らの解析によると、新規に HIV 感染症と診断された症例の遺伝子型検査で薬剤耐性変異を認める割合が増加しつつある。特に名古屋地区ではその割合が高い。薬剤耐性 HIV の伝播の評価には急性感染症例での遺伝子型検査実施が重要である。急性感染症例の診断は、薬剤耐性 HIV への対応を考慮する上でも重要である。

急性感染症例では、CD4 数が著減し、エイズ指標疾患の発症はないものの深刻な免疫不全状態に陥っている症例も少なくない。早期の抗 HIV 療法開始が望ましいが、身体障害者手帳申請に関連して将来の医療費負担が生じる可能性から治療開始を拒否する事例もあった。慢性感染例でも早期に治療開始される例が増加すると予想されるが、急性感染症の事例についても適切な時期に抗 HIV 療法が開始できるように身体障害者手帳制度等の再構築が必要とされる可能性がある。

自己評価

1) 達成度について

3 年間に名古屋医療センターで経験した 12 例の急性感染症例の長期経過の検討を行った。標準的治療法の確立に重要な知見を提供できたと考えられ、目的は概ね達成されたと考える。

2) 研究成果の学術的・国際的・社会的意義について

薬剤耐性班で得られた知見もあわせて、急性感染症例から HIV 感染の感染制御につながる知見が得られる可能性がある。横断的な研究推進により感染者の予後改善、感染拡大防止に貢献できる可能性がある。

3) 今後の展望について

地域啓発等も行いながら急性感染症発症の段階でより多くの HIV 感染者が診断されるように情報発信に情報を提供できると期待される。多施設で長期的に症例の蓄積を継続することが望ましいと考えられる。

結論

標準的治療法の確立を目指し、急性 HIV 感染症の病態解析を行った。早期の治療導入により予後改善につながる症例もあると考えられ、治療適応、方法などについてより詳細な検討が必要である。診断のための啓発活動も重要である。

知的所有権の出願・取得状況

なし

研究発表

原著論文による発表

1) Ibe S, Hattori J, Fujisaki S, Shigemi U, Fujisaki S, Shimizu K, Nakamura K, Kazumi T, Yokomaku Y, Mamiya N, Hamaguchi M, Kaneda T: Trend of drug-resistant HIV type-1 emergence among therapy-naïve patients in Nagoya, Japan: An 8-year surveillance from 1999 to 2006. *AIDS Res Human Retroviruses* 24: 7-14, 2008.

2) Gatanaga H, Hayashida T, Tsuchiya K, Yoshino M, Kuwahara T, Tsukada H, Fujimoto K, Sato I, Ueda M, Horibe M, Hamaguchi M, Yamamoto M,

- Takata N, Kimura A, Koike T, Gejyo F, Matsushita S, Shirasaka T, Kimura S, Oka S: Successful efavirenz dose reduction in HIV type-1-infected individuals with cytochrome P450 2B6*6 and *26. *Clin Infect Disease* 45: 1230-1237, 2007.
- 3) Takahashi M, Ibe S, Kudaka Y, Okumura N, Hirano A, Suzuki T, Mamiya N, Hamaguchi M, Kaneda T: No observable correlation between central nervous system side effects and EFV plasma concentrations in Japanese HIV type 1-infected patients treated with EFV containing HAART. *AIDS Res Human Retroviruses* 23: 983-987, 2007.
- 4) Gatanaga H, Ibe S, Matsuda M, Yoshida S, Asagi T, Kondo M, Sadamasu K, Tsukada H, Masakane A, Mori H, Takata N, Minami R, Tateyama M, Koike T, Itoh T, Imai M, Nagashima M, Gejyo F, Ueda M, Hamaguchi M, Kojima Y, Shirasaka T, Kimura A, Yamamoto M, Fujita J, Oka S, Sugiura W: Drug-resistant HIV-1 prevalence in patients newly diagnosed with HIV/AIDS in Japan. *Antiviral Res* 75: 75-82, 2007.
- 5) Hattori J, Okumura N, Yamazaki Y, Uchiyama M, Hamaguchi M, Nishiyama Y, Kaneda K: Beneficial effect of GB virus C co-infection in human immunodeficiency virus type-1-infected individuals. *Microbiol Immunol* 51: 193-200, 2007.
- 6) Hattori J, Shiino T, Gatanaga H, Yoshida S, Watanabe D, Minami R, Sadamasu K, Kondo M, Mori H, Ueda M, Tateyama M, Ueda A, Kato S, Ito T, Oie M, Takata N, Hayashida T, Nagashima M, Matsuda M, Ibe S, Ota Y, Sasaki S, Ishigatsubo Y, Tanabe Y, Koga I, Kojima Y, Yamamoto M, Fujita J, Yokomaku Y, Koike T, Shirasaka T, Oka S, Sugiura W. Trends in transmitted drug-resistant HIV-1 and demographic characteristics of newly diagnosed patients: nationwide surveillance from 2003 to 2008 in Japan. *Antiviral Res.* 2010 Oct;88(1):72-9.
- 7) Hirano A, Takahashi M, Kinoshita E, Shibata M, Nomura T, Yokomaku Y, Hamaguchi M, Sugiura W. High performance liquid chromatography using UV detection for the simultaneous quantification of the new non-nucleoside reverse transcriptase inhibitor etravirine (TMC-125), and 4 protease inhibitors in human plasma. *Biol Pharm Bull.* 2010;33(8):1426-9.
- 8) Ibe S, Yokomaku Y, Shiino T, Tanaka R, Hattori J, Fujisaki S, Iwatani Y, Mamiya N, Utsumi M, Kato S, Hamaguchi M, Sugiura W. HIV-2 CRF01_AB: first circulating recombinant form of HIV-2. *J Acquir Immune Defic Syndr.* 2010 Jul 1;54(3):241-7.

口頭発表

国内

- 1) 横幕能行、今村淳治、平野 淳、木下枝里、柴田雅章、服部純子、伊部史朗、岩谷靖雅、杉浦 互：名古屋医療センターにおける etravirine の使用状況と効果および適応に関する検討。第 24 回日本エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24 日-26 日、東京
- 2) 木下枝里、平野 淳、柴田雅章、高橋昌明、野村敏治、脇坂達郎、横幕能行、杉浦 互：リファンピシン併用下におけるインテグラーゼ阻害剤ラルテグラビルの投与量に関する検討。第 24 回エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24-26 日、東京
- 3) 高橋昌明、平野 淳、木下枝里、柴田雅章、野村敏治、横幕能行、杉浦 互：HPLC using UV detection for the simultaneous quantification of etravirine (TMC-125), and 4 protease inhibitors inhibitors in human plasma. 第 24 回エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24-26 日、東京
- 4) 平野 淳、木下枝里、柴田雅章、高橋昌明、野村敏治、横幕能行、杉浦 互：Tipranavir,

- Maraviroc, Efavirez, Enfuvirtide
併用患者に対する TDM の有効例。第 24 回エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24-26 日、東京
- 5) 渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨、横幕能行、濱口元洋、南 留美：急性 HIV 感染症の入院 37 症例の検討。第 24 回日本エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24 日-26 日、東京
- 6) 宇佐見雄司、菱田純代、横幕能行、横井基夫、萩野浩子：HIV 感染の然性としての口腔カンジタ症状についての考察。第 24 回日本エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24 日-26 日、東京
- 7) 吉居廣朗、前島雅美、北村紳悟、横幕能行、杉浦 互、岩谷靖雅：抗 HIV 宿主因子 APOBEC3 ファミリーの細胞依存症的な発現調節機構の解明。第 24 回日本エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24 日-26 日、東京
- 8) 西澤雅子、服部純子、横幕能行、Jeffrey Johnson、Walid Heneine、杉浦 互：高感度薬剤耐性検査法を用いた新規未治療 HIV/AIDS 症例における微小集族薬剤耐性 HIV 調査研究。第 24 回日本エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24 日-26 日、東京
- 9) 奥村かおる、横幕能行、三和治美、山田由美子、杉浦互、岩谷靖雅、平野 淳、木下枝里：ペナンボックス吸入時の苦味の軽減に対するハッカ飴の使用とその効果 第 2 報-他の有効な手段を探すためのハッカの有効性の検証。第 24 回日本エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24 日-26 日、東京
- 10) 岩谷靖雅、北村紳悟、吉居廣朗、前島雅美、横幕能行、杉浦 互：HIV-1Vif 感受性及びウイルス粒子への取り込みに関する APOBEC3C の機能ドメインの探索。第 24 回日本エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24 日-26 日、東京
- 11) 伊部史朗、横幕能行、服部純子、岩谷靖雅、加藤真吾、杉浦 互：抗レトロウイルス療法のモニタリングのための plasma HIV-2 viral load 測定系の確立。第 24 回日本エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24 日-26 日、東京
- 12) 新ヶ江章友、金子典代、石田敏彦、藤浦裕二、内海眞、横幕能行、市川誠一：名古屋市で開催されているゲイ・バイセクシャル男性向け HIV 抗体検査会における検査受検者の経年的推移。第 24 回日本エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24 日-26 日、東京
- 12) 菊池 嘉、遠藤知之、南 留美、伊藤俊広、田邊嘉也、上田幹夫、横幕能行、渡邊 大、藤井輝久、宮城島拓人、健山正男、中村仁美：多施設共同疫学調査における HAART の有効性 2009。第 24 回日本エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24 日-26 日、東京
- 13) 服部純子、椎野禎一郎、湯永博之、林田庸総、吉田 繁、千葉仁志、小池隆夫、佐々木悟、伊藤俊広、内田和江、原孝、佐藤武幸、上田敦久、石ヶ坪良明、近藤真規子、今井光信、長島真美、貞升健志、古賀一郎、太田康男、山元泰之、福武勝幸、加藤真吾、藤井 毅、岩本愛吉、西澤雅子仲宗根正、岡 慎一、伊部史朗、横幕能行、上田幹夫、大家正義、田邊嘉也、渡辺香奈子、渡邊 大、白阪琢磨、小島洋子、森 治代、中桐逸博、高田昇、木村昭郎、南 留美、山本政弘、松下修三、藤田次郎、健山正男、杉浦 互：2003~2009 年の新規 HIV/AIDS 診断症例における薬剤耐性頻度の動向。第 24 回日本エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24 日-26 日、東京
- 14) 横幕能行：脂質異常症に起因する合併症予防を考慮した初回治療薬選択の考え方。第 24 回日本エイズ学会学術集会(共催シンポジウム) 2010 年 11 月 26 日、東京
- 15) 今村淳治、横幕能行、服部純子、岩谷靖雅、杉浦 互：新規 HIV/AIDS 診断症例におけるトロピズムに関する検討。第 24 回日本エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24 日-26 日、東京
- 16) 木村雄貴、藤野真之、正岡崇志、服部純子、横幕能行、岩谷靖雅、鈴木淳巨、渡邊信久、杉浦 互：HIV-1 のダルナビル耐性獲得機構の酵素学的構造学的解明。第 24 回日本エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24 日-26 日、東京
- 17) 柴田雅章、平野 淳、木下枝里、高橋昌明、野村敏治、横幕能行、杉浦 互：薬剤師のための HIV 研修会開催についての事前アンケート調査結果。第 24 回日本エイズ学会学術集会、2010 年 11 月 24 日-26 日、東京

- 18) 北村紳悟、吉居廣朗、前島雅美、横幕能行、
杉浦 亙、岩谷靖雅：APOBEC3C における
HIV-1Vif に対する感受性を決定する領域の探
索。第 58 回日本ウイルス学会学術集会、2010
年 11 月 7 日-9 日、徳島

症例	性別	年齢	CD4数	ウイルス量	HBsAg	HBsAb	HCVAbs	RPR	主症状
1	M	36	114	6.5	—	+	—	—	熱発、肝機能障害
2	M	46	642	3.0	—	+	—	—	熱発、皮疹
3	M	34	184	7.0	—	+	—	+	熱発、汎血球減少
4	M	21	201	6.9	—	+	—	—	熱発、血球貪食症候群
5	M	40	206	5.5	—	—	—	—	熱発、腸炎
6	M	22	181	6.8	—	—	—	—	熱発、肝機能障害
7	M	28	196	7.0	—	+	—	+	熱発、肝機能障害
8	M	41	441	7.0	—	+	—	—	熱発
9	M	19	293	6.6	—	+	—	—	腸炎
10	M	38	264	5.2	—	+	—	—	熱発、皮疹、腸炎
11	M	27	553	5.3	—	+	—	—	熱発
12	M	29	296	7.0	—	+	—	—	熱発、リンパ節炎

Table 1 2008年から2010年まで名古屋医療センターの急性感染症例

男性12例。当院初診時の年齢、CD4数、ウイルス量およびHBV, HCV, 梅毒の罹患状況を示す。また、各症例の主な臨床症状、検査値異常内容を示す。年齢の中央値31.5歳(19歳—46歳)、CD4数($/\mu\text{l}$)の中央値235(114—642)、ウイルス量(log copies/ml)の中央値6.7(3.0—7.0)。

		未治療例	治療開始例
症例数		5	7
年齢		29 (22-46)	34 (19-40)
初診時	CD4数	442 (181-642)	201 (114-293)
	ウイルス量	6.8 (3.0-7.0)	6.6 (5.2-7.0)
治療開始時(初診から3ヶ月後)	CD4数	525 (385-598)	154 (79-312)
	ウイルス量	4.8 (3.2-5.0)	5.4 (4.6-6.6)

Table 2 治療開始症例と未治療例との比較

治療開始例と未治療例間で、初診時のCD4数、ウイルス量および治療開始時(未治療例では初診から3ヶ月後)のCD4数($/\mu\text{l}$)、ウイルス量(log copies/ml)の中央値(最小値—最大値)を示す。

症例	治療開始までの期間	CD4数	ウイルス量	治療内容
1	3	114	6.5	TVD+RAL
3	2	119	6.6	TVD+RAL
4	2	154	5.5	TVD+LPV/r
5	1	166	5.1	TVD+DRV/r
7	7	79	5.4	TVD+EFV
9	4	169	5.2	TVD+FPV/r
10	11	312	4.6	TVD+ATV/r

Table 3 治療開始症例

急性症状発現時から治療開始までの月数(ヶ月)、治療開始時のCD4数($/\mu\text{l}$)、ウイルス量(log copies/ml)および治療内容を示す。治療開始までの期間の中央値は3(1—11)であった。2010年の症例で早期に治療開始されている。

厚生労働科学研究費補助金エイズ対策研究事業

**標準的治療法の確立を目指した急性
HIV 感染症の病態解析
総合研究報告書**

発行：平成 23 年 3 月

発行者：標準的治療法の確立を目指した急性 HIV 感染症の病
態解析研究班

研究代表者 渡邊 大

〒540-0006 大阪市中央区法円坂 2-1-14

国立病院機構大阪医療センター 臨床研究センター

エイズ先端医療研究部 HIV 感染制御研究室

TEL 06-6942-1331
